

(様式1)

## 令和元年度 学校経営計画書及び最終評価報告書

金沢市立工業高等学校

校長 小酒 正明

### 1 教育理念

金沢市立工業高等学校は、金沢市及び地域産業の発展に貢献するために、質実剛健にして勤勉進取の気概を備えた有為なる人材を育成する。

### 2 教育目標

- (1) 高い教養とすぐれた技能を
- (2) 責任ある言動と協調の精神を
- (3) 勤労の喜びと健全な心身を

### 3 教育方針

- (1) 「ものづくり」の感性と工業の基礎・基本を身につけた創造性豊かな人材を育成する。
- (2) 部活動、生徒会活動、学校行事への積極的な参加を通じて、豊かな人間性や自主・自立の精神、ルール・マナーを守る人材を育成する。
- (3) 実習や課題研究を通して、働くことの意義や喜びを実感するとともに、社会の動きに関心を持つ人材を育成する。

### 4 今年度の重点目標

- (1) 教育内容や指導方法を工夫し、基礎基本の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力を養う。
- (2) 社会への対応力、及び人間力（規範意識、公共心、リーダーシップ等）の向上を図るとともに、安全や環境に配慮できる心を養う。□
- (3) 学校行事、生徒会活動、部活動、地域活動に積極的に参加し、生徒、教職員の愛校心を高める。
- (4) キャリア教育（インターンシップ、資格取得等）を強化し、生徒の適性に応じた進路の実現を図る。
- (5) 本市における教職員が本務に専念するための時間の確保に向けた取組方針を踏まえ取組を進める。

(様式2)

金 沢 市 立 工 業 高 等 学 校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び改善策など
1 教育内容や指導方法を工夫し、基礎基本の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力を養う。	① 家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図ることを目的に、家庭学習の時間調査を継続的に実施し、保護者との連携を密にして指導を行う。	【成果指標】 家庭学習時間を毎日1時間以上確保できる生徒の割合を50%以上にする。	家庭学習を毎日1時間以上取り組むことができた。 A. 1時間以上取り組んだ B. 十分とはいえないが取り組むことができた C. 少し取り組むことができた D. 全く取り組めなかった	C・Dの割合が50%以上の場合は方法を再検討する。	A: 8.1% B: 12.8% C: 37.4% D: 41.8%  (生徒アンケート)	家庭学習時間が全く不足している。各教科からの課題の量を調整し、家庭学習を習慣化させる必要がある。
	② 朝学習、放課後・夏季休業中・定期考査前の補習等の充実を図り、学習習慣の定着を目指す。	【満足度指標】 家庭学習を含め、朝学習や授業以外の補習に積極的に取り組むことができた。	朝学習や補習授業にしっかりと取り組むことができた。 A. 十分取り組むことができた B. 十分とはいえないが取り組むことができた C. 少し取り組むことができた D. 全く取り組めなかった	C・Dの割合が50%以上の場合は方法を再検討する。	A: 33.0% B: 42.9% C: 19.7% D: 4.4%  (生徒アンケート)	概ね定着してきているが、C・Dの合計が約24%あり、それらの生徒も自発的に学習に取り組むことができるように内容の充実が必要である。
	③ 習熟度別授業や少人数授業を展開し、学力の伸長を図る。	【満足度指標】 自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考えることで、問題を解決する力を実感できる。	習熟度別授業は自分の学力に合っていると思う生徒の割合が全体の A. 60%以上であった B. 50%～59%であった C. 40%～49%であった D. 40%未満であった	C・Dの場合は方法を再検討する。	習熟度別授業が自分の学力に合っていると答えた生徒が約85%であった。  (授業アンケート)	生徒自身は、概ね適正な習熟度クラスで授業を受けていると考えているようだ。更に上位のクラスで授業を受けたいと思わせる仕組みを構築していきたい。
	④ 定期考査の欠点科目保持者をリストアップし、校内LANで教員間の情報の共有化を図る。赤点を複数科目保持する生徒については、担任が生徒面談および保護者に早期に連絡するよう教務部から働きかける。	【努力指標】 成績不良者の成績を生徒自ら及び保護者が自覚又は確認する機会を設け、教務部・学年主任・担任・生徒・保護者による面談を行う。	生徒や保護者に対して成績向上のための啓発活動ができた。 A 生徒に著しい変化が見られ、十分有効だった B 有効だった C 生徒・保護者ともに現状認識が足りない D 担任から生徒・保護者への意思疎通が十分なされなかった	C・Dの割合が70%以上の場合は指導方法を再検討する。	A: 8.3% B: 66.7% C: 25.0% D: 0.0%  (教員アンケート)	Bの有効だったとの答えが最も多かった。一方で、Cの生徒・保護者とも現状認識が足りないとの回答が25%ともあり、保護者との連携を強化していく必要がある。
	⑤ 補習内容を学校全体が把握できるシステムを構築する。	【努力指標】 工業科別に実施する補習について、学校全体が周知・把握できるシステムを構築する。	各科が補習内容や実施時期を学校全体に周知できた。 A 十分周知された B 一応周知された C あまり周知されなかった D 周知されなかった	C・Dの割合が40%以上の場合は指導方法を再検討する。	A: 20.0% B: 65.0% C: 15.0% D: 0.0%  (教員アンケート)	職員朝礼や電子掲示板で、補習について学校全体に周知されてきた。 ICTの活用で100%の周知を目指したい。
	⑥ 進路指導年間計画に基づき、各学年に応じた進路指導を展開する。特に学年会とは情報を共有し生徒の進路実現を目指す。	【成果指標】 就職決定率、進学決定率	就職決定率、進学決定率 A 両方とも98%以上 B 一方は98%以上、一方は95%以上98%未満 C 両方とも95%以上98%未満 D 上記以下	C、Dの場合は、取り組み方を再検討する。	就職・進学共に:A	就職：99.3%、進学：98.9% (2020.2.26時点)
	⑦ 金沢市立海みらい図書館との連携・協働を図り、ものづくり教育の発信や図書委員会活動を活性化し、読書活動を推進する。	【成果指数】 図書館利用者、及び本の貸出冊数の増加と蔵書の充実を目指す。	図書館の年間貸し出し冊数、および利用者数がそれぞれ前年度数を上回ることを目指す。 A 上回った B ほぼ同じであった C 少し下回った D かなり下回った	Dの場合は、指導や取り組みの見直しを行う。 B以上を目指す。	B 貸し出し冊数は前年度比100%、利用者数は前年度比97%	前年度に比べ、貸し出し冊数は変化無く判定をBとした。利用者数は3%の減少であったため判定をBとした。3パーセントの減少は、期末考査終了後の利用数減少が一因と推測される。次年度は、図書館利用を促進する書籍・資料等の充実を進める。

(様式2)

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び改善策など
2 社会への対応力、及び人間力(規範意識、公共心、リーダーシップ等)の向上を図るとともに、安全や環境に配慮できる心を養う。	① 傘さし運転ゼロ運動により、雨天時にはカッパを着用して自転車通学をさせ、傘さし運転をさせない。	【成果指標】 傘さし運転およびカッパ未着用者を減少させる。	傘さし運転ゼロ運動により違反者が全校で A 一人もいない B 5人未満である C 5人以上である D 15人以上である	C・Dの場合は指導方法を再検討する。	B(平均3.3人)	本校教職員の有志によって早朝からの傘差しゼロ運動を実施している。その成果もあり違反者数は減少している。内訳を見ると1年生が多いので、入学時にしっかりと指導して、規範意識を高めさせていく。
	② 校内での携帯電話使用をさせない。	【成果指標】 携帯電話使用する生徒を減少させる。	校内での携帯電話使用違反者が、クラス毎の延べ人数(半期) A 5人未満 B 6人～10人未満 C 10人～15人未満 D 15人以上	C・Dの場合はクラス毎に指導する。	B(8人)	夏休み明けや学校行事の多い10月に、気持ちの切り替えができずに携帯を使用している生徒が多かった。日頃から規範意識を高める指導をしていかなければいけない。
	③ 遅刻をさせない指導の徹底を図る。	【成果指標】 一日の遅刻者数を減少させる。	一日平均遅刻者数(年間)が A 1人未満 B 1人～2人未満 C 2人～3人未満 D 3人以上	C・Dの場合は指導方法を再検討する。	B(平均1.2人)	遅刻の多い生徒が一人でもいるクラスは累計が多くなってしまっている。一人の遅刻が周りにも悪い影響を与えてしまっていることを全教職員で自覚させていきたい。
	④ 自ら進んで挨拶を行う	【努力指標】 主体的に元気よく挨拶する生徒を増やす	主体的に挨拶する生徒が A 80%以上 B 70～79% C 60～69% D 60%未満	70%未満の場合改善を検討する	A:65.1% B:33.2% C:1.6% D:0.1%  (生徒アンケート)	ほとんどの生徒が自ら挨拶はできている。さらに質を高めるため、元気な声でしたり、目を見てしたりなど気持ちを込めた挨拶を目指していく。
	⑤ いじめの重大事態に早期発見・早期対応に向け気になる情報については速やかに共有し組織的な対応を行う。	【努力指標】 担任や関係職員と情報交換をはかり、未然防止・早期発見に取り組む。	教員は、日常の様子から生徒の発するサインを見逃さないことを意識している。 A. よくはてはまる B. まあまああてはまる C. あまりあてはまらない D. あてはまらない	C・Dの割合が30%以上の場合は、取り組み方を再検討する。	A:50.0% B:48.3% C:1.7% D:0.0%  (教員アンケート)	いじめアンケートや悩みアンケートだけでなく、日頃から生徒の人間関係を把握していくように努めていく。また些細な人間関係のこじれからいじめに変わっていくこともあるので、情報交換を密に行っていく。
	⑥ ゴミの持ち帰り・ゴミの少量化・分別の徹底を図る。	【努力指標】 クラスや各部活動が中心となり学校全体で、ゴミ分別や持ち帰りの意識を高める。	生徒がゴミの持ち帰りや分別を行う事ができたか。 A. ゴミの持ち帰りや分別を行うことができた B. だいたい行うことができた C. あまり行わなかった D. ほとんど行わなかった	C・Dの割合が20%以上の場合は、取り組み方を再検討する。	A:63.1% B:34.9% C:1.7% D:0.3%  (教員アンケート)	良好な結果ではあるが、今後も指導を続けていき、分別だけでなくゴミの少量化やリサイクルの大切さも考えさせていきたい。
	⑦ クラスに保健室・教育相談室の紹介をする。1年オリエンテーションで具体的に説明する。	【努力指標】 生徒が充実した学校生活を送ることができる。	保健室、教育相談室は体や心の健康について利用や相談ができるか A できる B 必要である時にできる C あまりできない D できない	A・B合わせて50%未満の場合は、取り組み方を検討する。	A:29.8% B:51.7% C:9.1% D:9.4%  (教員アンケート)	A・Bと答えた生徒は昨年の77.1%と比べ81.5%と良好である。しかし、全然できないと答えた生徒が昨年より若干増え9.4%である。来年度は、C.利用する必要がないD.利用したいが全然できないと質問を変えて状況をみたい。
	⑧ 実習による事故を起こさない。	【努力指標】 注意喚起、環境改善、KY教育の徹底により、ゼロ災害を目指す。	事故の発生件数が A なし B 1～3件 C 4～6件 D 7件以上	Aでなければ安全教育のあり方を再検討する。	B (すり傷1件、切り傷1件)	日頃から事例について書面で確認するなどKY教育を徹底し、適切な休憩や作業環境の確保を行うことで、事故発生ゼロを目指していく。

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び改善策など
3 学校行事、生徒会活動、部活動、地域活動に積極的に参加し、生徒、教職員の愛校心を高める。	① 運動部、文化部の加入率を高めるとともに、各種大会等での上位入賞を目指す。	【努力指標】 引き続き、高い部活動加入率の維持を図る。	全学年の部活動加入率が A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70～80%未満 D 70%未満	C以下の場合は次年度の改善策を検討する。	B 加入率88.6% 運動部408 文化部223 未加入81	全学年の部活動加入率が88.6%と昨年度に比べて若干低下した。高学年になるほど加入率が低下しており、継続する力の重要性を生徒に理解させる指導が必要である。
		【努力指標】 引き続き、高い1年生年度当初の部活動加入率の維持を図る。	1年生年度当初の部活動加入率が A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70～80%未満 D 70%未満	C以下の場合は次年度の改善策を検討する。	A 90.4%	1年生年度当初の部活動加入率が90.4%と高い加入率を維持した。学業と部活動の両立を通して生きる力を養うことを今後も指導していく必要である。
		【成果指標】 春と夏の全国大会出場の数増加を図る。	春または夏の全国大会出場ができた部活動数が A 7部以上 B 4部～6部 C 1部～3部 D なし	Dの場合は対策を考える必要がある。	A 7部	水球部、相撲部、弓道部、剣道部、バドミントン部、新体操部、ボウリング部の7つの部活動が全国大会に出場した。
		【満足度指標】 生徒が達成感をもって活動している。	生徒の部活動に対する充実感が A 十分満足している B ほとんど満足している C あまり満足していない D 満足していない	A・Bの割合が70%未満の場合は、再検討する。	A 44.7% B 31.0% C 14.2% D 10.1%  (生徒アンケート)	A・Bの割合が75.7%であった。昨年度に比べて低下したものの、高い充実度を維持した。生徒が部活動に集中できる環境作りが必要である。
	② 応援練習及び高校相撲金沢大会を学校をあげての行事として設定し、一丸となって応援することで学校の帰属意識や愛校心を醸成させる。	【努力指標】 生徒が自ら考えて応援を指導する。	全クラスの応援委員の人数が A 300人以上 B 200人以上 C 100人以上 D 100人未満	Dの場合は、対策を検討する。	A 306人	全クラスの応援委員の人数が306人であった。近年稀に見る高い委員数であった。特に、高校相撲金沢大会での全校応援が高い評価を受け、県健民運動青少年ボランティア賞を受賞した。
		【満足度指標】 市立工生としての誇りと連帯感を実感できた。	応援に参加して A 大変実感できた B 実感できた C あまり実感できなかった D 全く実感できなかった	C・D合わせて30%以上の場合は取り組みを再検討する。	A 63% B 34% C 2% D 1%  (生徒アンケート)	C・Dの割合が3%であった。母校に対する高い誇りと連帯感を実感できた生徒が多く、今後も継続して実施していくことが大切である。
③ 金工祭において、生徒会・クラス・文化部・工業科がそれぞれ主体となって展示、イベントを実施する。	【満足度指標】 金工祭を盛り上げるために、主体的に取り組んだ。	金工祭での活動に A 主体的に取り組んだ。 B 少し主体的に取り組めた。 C あまり主体的に取り組めなかった。 D 主体的に取り組めなかった。	C・D合わせて30%以上の場合は取り組みを再検討する。	A 46% B 43% C 9% D 2%  (生徒アンケート)	C・Dの割合が11%であった。生徒会執行部が主体となって「全員参加型の金工祭」を進めてきたことが、各生徒にとって主体的に取り組めた一因となった。	
④ ボランティア活動を推奨する。	【努力指標】 ボランティアの参加者を増やす。	年間を通してボランティア参加者が A 100人以上 B 80～100人 C 60～80人 D 60人未満	C・Dの場合は、取り組み方を検討する。	A:241人	年間を通じたボランティア参加者がのべ計241人であった。その内訳は、サマーボランティア21人、金沢マラソン120人である。県健民運動青少年ボランティア賞を受賞する一因になった。	
⑤ 全校集会で校歌斉唱を実施する。	【努力指標】 自発的に大きな声で校歌斉唱する生徒を増やす。	自発的に校歌斉唱できる生徒が A 80%以上である B 70%～79%である C 60%～69%である D 60%未満である	C・Dの場合は、取り組み方を検討する。	A: 8.3% B:56.7% C:31.7% D: 3.3%  (教員アンケート)	概ね自発的に校歌を歌っている。特に相撲大会では校歌をしっかり歌っていた。引き続き、本校に誇りを持って校歌が斉唱できるように行事や全校集会を通じて指導していきたい。	
⑥ 高校生ものづくりコンテスト大会(旋盤、電気工事、電子回路組立、木材加工、測量等)及びそれに準じるコンテストにおいて上位入賞を目指す。	【成果指数】 各種コンテスト大会においての上位進出を目指す。	今年度のコンテスト大会において A 全国大会入賞 B 北信越大会(ブロック大会入賞) C 県大会入賞 D 入賞なし	Dの場合は、指導や取り組みの見直しを行う。 B以上を目指す。	B [機械科] アメリカンフットボールロボット大会 全国大会予選2位 [電気科] ものづくりコンテスト電気工事部門 北信越大会第3位 [建築科] ものづくりコンテスト木材加工部門 北信越大会2位 [土木科] ものづくりコンテスト測量部門 北信越大会3位	昨年の木材加工部門は県大会3位であったが、本年度は北信越大会出場を果たすことができた。その一方で、昨年度準優勝の全国ソーラーラジコンカーコンテストは入賞を逃した。次年も引き続き高みを目指し、原因を分析し、到達度・課題点を見直しながら、日々の活動に反映して励んでいきたい。	

(様式2)

金 沢 市 立 工 業 高 等 学 校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び改善策など
4 キャリア教育(インターンシップ、資格取得等)を強化し、生徒の適性に応じた進路の実現を図る。	① 就業体験学習、工業人養成企業実習に積極的に参加し、進路選択に役立てる。	【満足度指標】 多くのことも学べるように積極的に活動している。	就業体験学習、工業人養成企業実習に参加し A 進路意識が大いに高まった B 進路意識が少し高まった C 進路意識はかわらなかった D 進路意識を高めるに至らなかった	C、Dの場合は事後指導をしっかりと行い、次年度の事前学習について検討する。	A : 83% B : 17% C : 0% D : 0%  (生徒アンケート)	体験者全員が進路意識が高まる結果となった。進路に対しての意義は大きいため、今後も継続するが、積極的に参加する生徒を増やす努力を継続していく。
	② ジュニアマイスターを推奨し、多くの資格取得に挑戦する意識付けの取り組みを推進する。	【成果指標】 資格取得によるジュニアマイスター受賞者の人数を増やす。	3年卒業時のジュニアマイスター受賞者の数が A 80人以上 B 60人以上80人未満 C 40人以上60人未満 D 40人未満	Dの場合は、取り組み方を再検討する。	B : 75人	クラスや火での資格取得推進、掲示物コーナーの作製により、生徒の意識付けが高まった。